

より効率的な運送を

神ト協 求荷求車システム合同説明会

【神奈川】神ト協(吉田修一会長)は3月24日、「求荷求車システムに係る説明会」を開催した。同事業は経営改善委員会(飯沼健史委員長)の事業の一環として企画。業界を代表する求荷求車システムである「WebKIT」「ローカルネットワークシステム」「トラボックス」の各運営組織が参加し、それぞれの特徴や利点をPRした。これら求荷求車システム運営組織が一堂に会した説明会は、全国でも初の試みとなる。開会に際して、同協会の藤木幸二副会長は、「会員の皆様のビジネスチャンスになればと考え、企画した」と開催の趣旨を述べた。

説明会ではまず「WebKIT」の運営組織である日本貨物運送協同組合連合会(古屋芳彦会長)の村田省蔵専務理事、助川利信常務理事が登壇。日貨協連や全ト協といった業界団体が開発・運営することによる安心感をPRした。また、荷物事故の保険制度や、組合員の倒産などに対応した運送料金支払い補償制度について説明したほか、実際のシステムの使用方法を解説した。



藤木副会長

続いて、「ローカルネットワークシステム」の運営組織である日本ローカルネットワークシステム協同組合連合会を代表して、

最後は、「トラボックス」を運営するトラボックスの吉岡泰一郎社長が登壇。4万社を超える会員数や、40社の荷主企業が参加している点をPRしたほか、実際の荷物情報画面を操作しながら、サービスの特徴を解説した。同システムでは、14日間の無料お試し期間が設定されている。閉会に際して、飯沼委員長はあいさつで、「将来的には、残業時間の制限や労働時間の削減はより厳しくなることが予想される。今日紹介されたシステムなどを活用し、より効率の良い運送を展開していく必要がある」と総括した。(田川侑史)